



## 奈良女を **どんな大学** にしたいですか？

6月1日に「教育研究組織見直し」に関する説明会が開催され、今、改組についての全学的な議論が行われています。大学をめぐる厳しい情勢下、奈良女子大学も変わって行かねばならない。しかしその際、外圧によって変化を強いられるのではなく、私たちの自前のヴィジョンに基づいて、大学を新しく創っていききたいものです。

**では、私たちは奈良女子大学を、どんな大学にしたいと考えるのでしょうか？**

論点は多岐にわたるはずですが、先日の説明会でも野口学長のお話の焦点の一つは、大学の「機能別分化」への対応でした。そこで問題になるのが、本学における専門教育と教養教育の関係です。これは奈良女子大学の将来を考える際に避けて通れない論点です。

このような状況に鑑みて、教育システム研究開発センターでは、これまでの附属学校園との共同研究に加えて、センター設立当初の構想に立ち戻り、**大学教育そのものを対象とした新たな高等教育研究・開発プロジェクト**を立ち上げました。以下は、その構想と、**全学の皆さまに対する協力**のお願いです。

### ■ 研究テーマ ■

#### 大学の「機能分化」状況における専門教育と教養教育との創造的再構成 —専門教育と教養教育の関係を、奈良女子大学はどうするのか？—

近年、大学進学率のいっそうの上昇（高等教育のユニヴァーサル化）の中で、大学の「機能分化」の必要性が叫ばれています（大学審議会「21世紀の大学像」1998年、中教審「高等教育の将来像」2005年など）。この状況は、奈良女子大学にきわめて難しい選択を突きつけています。敢えてシンプルに言うならば、それは「**研究大学**」か「**教養大学**」か、という選択です。もしこれが単純な二者択一であるならば、おそらく本学は進退窮まります。

単純に「研究大学」路線を強行した場合、旧帝国大学との競合の中で埋没することになるでしょう。じっさい既に私たちは大学院定員充足の困難に直面しています。大学院教育のレベルはむしろ低下し、形骸化しかねません。かといって、「教養大学」路線を選んでも、今度は歴史的な本学のプレステージを失い、京阪神の女子大との競合の中で埋没することになるでしょう。この路線も、本学の理念からして、また経営戦略の視点からも、自滅の道です。——右を選んでも左を選んでも行き詰まる、ダブルバインドの罠に直面して、奈良女子大学はどうしたらよいのでしょうか。

唯一の活路は、「**機能分化**」の罠に陥らずに、**高度な専門教育と新たな教養教育を、創造的に再分節化して、敢えて両立させること**であると考えます。

ところが、この取り組みにあたって、私たちは拠り所となるモデルを持っていません。1991年の大学設置基準「大綱化」以後、日本の大学における教養教育は崩壊したと言われています。では、どうしたらよいのか。教育学の理論においても、この問題の「正解」は得られていません。——実践的にも理論的にもモデルが無いことは、困難ではありますが、可能性でもあります。私たちが求めているのは、あらかじめ与えられた理念や理論を具体化することでもなければ、どこかの成功例を模倣することでもなく、**奈良女子大学ならではの、本学にとって必要な、本学でこそ可能な、実践的な答え**です。

それを求めるために私たちは、奈良女子大学の教員に専門教育と教養教育のあり方について意見を伺うと同時に、本学の学生の学習状況を調査し、それらを基に全学的な議論を喚起したいと考えています。本プロジェクトは、まずその触媒となることを目指しています。具体的には、プロジェクトを担当するセンター員が附属学校も含めた学内の様々な教員にインタビューを行い、その内容をニューズレターで報告することを通じて、問題提起および議論の基盤形成を試みます（いずれ学内のフォーラムなども企画したいと考えています）。

また、本学の学生が実際にどのように各カテゴリーの科目を履修し、如何に学習しているのかについてケーススタディを行い、その実態と問題点もニューズレターを通じて報告します。

それらの活動の蓄積の上に、高等教育論の研究成果も加味して、2011年度末を目処に、奈良女子大学の教育課程再編成（専門教育と教養教育の再分節化）のたたき台プランを作成します。翌2012年度には、そのたたき台プランについてさらに学内での議論を重ね、年度末までに教育計画室に対して具体案を提起します。上述のように、求められているのは一般的な高等教育の理論ではなく、奈良女子大学ならではの実践的な答えです。ですから、このプロジェクトが最終的に目指すのは、あくまで本学において実施可能な具体的なプランを作成することです。——そのスタートにおいて重要なのがインタビューです。

## ■ インタビューのお願い ■

そこでお願いです。これから学内の様々な先生方にお声をかけさせていただきます。ランダムに、しかしできるだけ多くの先生方にインタビューを行いたいと考えています。その節は、おおむね以下のような項目について30分程度、お話を伺うことはできないでしょうか。失礼でなければ研究室を訪問させていただきます。

- 今の奈良女子大学の学生の教養教育と専門教育の学び方について、どのように見ておられますか。
- ご自分が学生時代に学んだ教養教育についての記憶や感想をお聞かせください。
- 教養とは、何のために、どのように学ばれるべきだとお考えですか。また、教養教育と専門教育の関係は、どのようであるべきだとお考えですか。
- 奈良女子大学の教育について問題を感じておられることはありますか。また、それについて、何かアイデアをお持ちなら、お聞かせください。

インタビューの内容はICレコーダーで録音させていただき、それをもとにセンター員がご発言内容の要旨をまとめます。まとめは一度ご本人にチェックをお願いした上で、随時ニューズレターに掲載させていただきます（また、いずれかの段階で報告書にもまとめて掲載する予定です）。

以上をご了解いただいた上で、インタビューをお願いできないでしょうか。

どうぞよろしくお願いいたします。

奈良女子大学教育システム研究開発センター  
高等教育研究プロジェクト

代表 西村 拓生（文学部人間科学科）

甲斐 健人（文学部人間科学科）

藤井 康之（文学部人間科学科）

保田 卓（文学部人間科学科）

内線：3332 E-mail: takuo@cc.nara-wu.ac.jp

### ■ 奈良女子大学教育システム研究開発センターニューズレター 15 ■

2011年7月7日発行

奈良女子大学教育システム研究開発センター

住所：〒630-8506 奈良市北魚屋東町

奈良女子大学コラボレーションセンター 204

TEL. : 0742-20-3352

Website : <http://www.nara-wu.ac.jp/crades/>